



¡MÉXICO MÁXICO!

メヒコ マヒコ - 魅惑の国メキシコ - Nov. 2017



【Vol.3】死者の日レポート

死者の日の飾り付け@ソカロ広場

メキシコ版お盆〈死者の日〉

11月1-2日はメキシコ版お盆“死者の日(El día de Muertos)”。国内各地で盛大なお祭り期間に入ります。街中に溢れるマリーゴールドの花(Cempasúchil: センパスチル)は、その強い香りによって死者達が迷わず自分の家族のもとへ帰れるようにとの意味があり、他にも、ほんのりオレンジ風味の死者の日限定パン〈パン・デ・ムエルトス〉やチョコレート等で作られた小さなガイコツ菓子など死者の日を楽しむアイテムが露店で売られるようになります。

映画「007-スペクター」(2015)がきっかけとなり、昨年よりシティのレフォルマ通りで始まった死者のパレードも見ることができました。



世界遺産の街モレリア歴史地区へ

学校も休みのため、せっかくなのでミチョアカン州のモレリアまで足を運んできました。シティからは高速バスENTで片道約500MXN(3,000円)。5時間、300Kmの旅です。メキシコの高速バスは飛行機より快適で、ゆったりリクライニングシートに軽食&ドリンクつき。この日はパン・デ・ムエルトス(死者のパン)で気持ちも高まりました。Wi-Fiも完備、モニター付きで映画も見放題です。



旅の目的は、モレリア発のナイト・ツアー“*Noche de muertos*(死者の夜)”

でハニツィオ島やパクツアロ、ツィンツンツァンといった地方の〈死者の日〉を見学することだったのですが、日程が合わず今回は見送り。また次の機会まで楽しみにとっておくことにし、世界遺産の街モレリアを堪能しました。

モレリアは、50ペソ紙幣でお馴染み、メキシコ独立革命の英雄ホセ・マリア・モレーロスから名付けられた街です。スペイン植民地時代のコロニアル建築や碁盤の目状に区画された道端では、たくさんの祭壇に捧げ物(Ofrenda: オフレンダ)やろうソクが灯され、幻想的な一夜を過ごすことができました。



死者の日≒ハロウィン？

元々、先コロンブス期の死者の日の祭壇には、果物やアマラント(Amaranto: 粟のような種子)がお供えされ、ダンスや歌の儀式が行われていました。その後、スペイン植民地時代にキリスト教的なろうソクや香炉、パン・デ・ムエルトスを取り入れられ、土着の文化とスペイン文化が混ざった〈死者の日〉が完成します。現在では様式に囚われず、コーラやメスカル酒などもお供えするそうです。

シティではハロウィンの要素が強く、死者の日期間中はドクロ・メイクをした大人や子ども達の高クオリティ仮装に一瞬ドキッとします。私もパーティーに参加したり、お菓子をあげたりとシティ的な死者の日を楽しむことができました。





一方で、商業的なイベントではない、宗教や信仰心を基にした〈死者の日〉のセレモニーを見たく探しましたが、シティでは地区の小さな寺院で行われていた夜のミサを見ることができた程度でした。家族で過ごす大切な日、プライベートな〈死者の日〉を見るのはなかなか難しいのかも知れません。

モレリアから家に帰った夜、玄関の扉を開けると、机に小さな木箱が置かれ、その前にろうソクがひとつ灯されていました。暗くてよく見えなかったのですが、敬虔なカトリックである大家さんの〈死者の日〉に心打たれるものがありました。死者の日は死者のためにある。ラテン語の有名な一節メメント・モリ- 死を想え- を思い出す 2017 年の死者の日でした。

プレ・イスパニコ — 先コロンブス期の芸術

秋期 2 の CEPE 文化クラスでは、スペイン植民地以前の先コロンブス期の歴史を 2 コマ受講しています。先日は課外授業として、シティのソカロ広場の横にあるテンプロ・マヨール遺跡と UNAM 大学の南にあるクイクイルコ遺跡でフィールド・スタディをしてきました。

テンプロ・マヨールと言えば、「地球の歩き方」にも載っている有名観光スポットですが、じつは現在も発掘調査が続けられており、通常は盗掘の点から非公開にされる発掘現場が自由に見られるという遺跡好きにはたまらない環境です。

パワースポット？クイクイルコ遺跡



授業では、遺跡の来歴や構造物の特徴などについて学ぶほか、最近ではもっぱらアステカ神話に出てくる神々や動物、生贄について集中的に学んでいます。ナワトル語が頻繁に出てきて難しいのですが、例えばシティのオアシス〈チャプルテペック公園〉の意味は“バッタ(=チャプル)のいる丘(=テペック)”のように地名の由来がわかるようになり、いつか役立つ豆知識が着々と増えてきています。

クリスマス休暇には、今期に学んだトゥルム遺跡やヤスチラン遺跡など南部の遺跡巡りツアーに行けたらと計画中、今から楽しみです。

お値段以上に楽しめるメキシコの博物館事情

メキシコの国公立博物館の観覧料は、学生無料、一般でも 70MXN(420 円)以下がほとんどなので、日本と比べると格段に安いです。

値段と質は比例する？と思いきや、むしろ逆で、展示数がとても多いため見応えたっぷり。日本だと展示する作品数は多くても 100 点前後で、作品間の余白を多く取り、ひとつひとつの作品を際立たせますが、メキシコ流は数で勝負！です。作品を吊ったり、鏡を置いて空間に奥行きを出したり、日本では見られないアクロバティックな展示はとても刺激的。それでも、配置は絶妙なバランスを保っていて、破綻せずに魅せる展示手法は勉強になります。

昔の王侯貴族や著名人の邸宅がそのまま博物館や美術館として使われるメキシコ。ホワイトキューブとはまた違った展示手法について、メキシコ滞在中に体系的に学ぶ機会を得られたらと思っています。

テンプロ・マヨール遺跡



圧倒的な展示数の民芸品博物館

